

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4372400988		
法人名	医療法人 安田会		
事業所名	グループホーム るしだ		
所在地	熊本県 玉名市 横島町横島3399番地1		
自己評価作成日	令和5年12月 11日	評価結果市町村受理日	令和6年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.gh-seika.com/">http://www.gh-seika.com/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和6年3月1日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

新型コロナウイルスが5月に5類の扱いに移行し、世間は以前のような日常を取り戻しつつあるが、地域に一定数の感染者がいる以上、事業所としてはまだ窓越しの面会を継続している。そんな中、利用者はなかなか家族と直に接する機会を作れないので、生活の様子などを写真に撮影し、毎月家族へ担当職員より手紙をお渡している。職員の手書きで真心をこめた手紙なので、なかなか会えない家族からも喜びの声をいただいている。また、前年度の人事異動により、新しい管理者を迎えるなど人材育成にも力を入れているが、8月に事業所で初めて新型コロナのクラスターが発生した時には、併設事業所にあるしだ勤務経験者がいることで、臨時の応援体制にもスムーズに入ることができた。感染や虐待、自然災害対策など法人全体として委員会活動を行うことにより、職員が少人数という短所も補うことができています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームは開設20年を迎え新たな体制で理念に基づき基本方針を作成し、コロナ禍で叶えられなかった入居者の思いに応えるべく新年度に向けて下準備を行っている。入居者が日中の殆どを過ごすリビングは高い天井のホールになっており、ベランダ側の窓には椅子が設けられ庭を眺めながら日光浴を楽しまれている。開設時から入居者・家族の負担を考慮した利用料金設定の中、献立作成から調理まで職員の手作り食の提供や、露天風呂気分を味わえる浴室でゆっくり湯舟に浸かってもらえるよう状況によっては2名で介助するなど個別支援の充実に取り組んでいる。法人との連携を図りながら入居者の健康管理、災害を含め有事の際の体制が取られている。洗濯物干しから取り入れ、たたみ作業を手際よくこなされる方、いつもの位置に使い慣れた机が見当たらない事を職員へ言葉や手振りですっきり伝える方、食後も気の合った方同士で談笑するなど入居者の日常は穏やかさの中にも自分らしく過ごせる環境があり、訪れる者も安心感を持つ事が出来るホームである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は見える所に掲げて共有している。毎年各自で業務に照らし合わせて評価を行う。	ホームは開設20年の大きな節目を迎え、理念を基に2項目の基本方針を作成している。作成にあたっては職員にアンケートを取り理念を具現化して地域密着型事業所として「地域から見守られながら暮らしてもらうための環境を提供する」とした内容を方針の一つとしている。年度末には1年を振り返って評価を行い、職員が個人目標を立てて新年度に備えている。	本年度は入居者の要望を前に進める事が出来なかったとし、新年度はこれまで継続していたことプラス、新たなものに取り組んでいくこととしている。それらを含め基本方針については運営推進会議などで紹介されたら良いと思われる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	世界アルツハイマーデーに、市がオレンジ色のマリーゴールドを市内全域で咲かせるプロジェクトを企画したが、当事業所も庭園に苗を植えたり、利用者が種を袋に入れる作業をしたりと参加協力をした。	行政のプロジェクトに協賛し、花の苗を植えたり毎年開催されるいちごマラソンでは前面道路を力走するランナーをホールから応援している。当初より自治会に加入しており、会費や必要経費を納入して回覧板のやり取りを行い、地域情報を収集している。地域交流の機会は難しかったものの、ホーム長が出前講座で地域に出向いた際には認知症の啓発とともにホームの取組についても紹介している。	地域の保育園児との交流も中断しているが、再開に向けてコンタクトを取るなどホームからのアプローチに期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム長が地区のキャラバンメイトに登録しているが、感染予防のため、地域に顔を出す活動はまだ慎重に見合わせている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より事業所での開催を再開している。入退居や事故、生活の状況についてなど報告し、出席者に意見やアドバイスを求めている。	本年度より会場を法人施設として直接開催に移行している。行政や包括職員、地域の代表者などが参加し、ホームの現状やヒヤリハット及び事故などについて報告と説明を行なっている。参加者から質問があがっていた、ピンセンサーの代替え手段や使用した際の効果や課題についても法人全体で研修することを報告している。	新年度初回の会議では参加者に向け議事録とともに「運営推進会議規則」を添付し、会議の意義やあり方について改めて紹介している。個人情報などにかかわる内容も含まれることから今後も継続して啓発し、新たな気持ちで会議をスタートされることが期待される。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への出席や運営指導など多岐にわたって連携体制をとっており、困ったことや分からないことがあれば、連絡すれば丁寧に教えてもらえる。	運営推進会議には行政や包括の職員が参加しており、ホームの現状を発信しながら身体拘束に対するホームの方針などについて質問を受けている。本年度は行政による運営指導を受けており、指導を仰ぎながら良好な関係を築いている。認定調査は玄関内で対応し、職員が入居者の言葉を捕捉しながら普段の様子を見てもらうようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会の毎月話し合いと、年2回の勉強会により、職員の身体拘束への理解を深めている。	身体拘束適正化委員会を設置して、年2回の研修会と月の勉強会を開催しており、「虐待防止検討委員会」についても早期に着手している。勉強会では気になった課題や共有したい事柄について意見を出し合い、検討するようにしている。入居者とのやり取りは横島弁で行い、入居者に馴染みある言葉で安心してもらうようにしている。	運営推進会議の中でもホームで課題としている点などを明らかにして、透明性のある運営を図っており、今後も外部からの意見を入居者支援に反映されることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止検討委員会の毎月話し合いや年2回の研修を実施し、虐待防止に努めている。また、年に2回「虐待の目チェックリスト」というアンケートを職員に配布し、気になる意見がある時は、臨時的研修会を実施する。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方がおられるが、これから利用したいと相談がある場合も、顧問弁護士に窓口になってもらえる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に、入退居や契約解除の条件等重要な部分に特に時間をかけて説明している。また、疑問のある時はいつでも気軽に連絡してもらうよう伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、家族とのやり取りで、気軽に要望を伝えられるような接遇、雰囲気作りに努めている。再開した運営推進会議には家族代表者も登録している。	面会時には入居者の近況を伝えながら、意見や要望をもらうようにしている。入居間もない家族には特に自宅での生活習慣(排便コントロールなど)について尋ねながら日々の支援に反映している。入居者の普段の様子は写真とともに送付しており、面会が難しい遠方の家族からも喜ばれている。入居者の要望は普段のやり取りから引き出し、ホームで出来る事は早期に対応するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回定例会を行い、意見交換をしている。代表者は平日には必ず事業所を訪れるので、相談や意見する機会は十分にとれている。	月の第二木曜日を定例会として勉強会の機会としたり、業務改善やケア向上につながる意見や提案を出し合うようにしている。職員意見が浴室の備品購入につながっている。ホーム長は管理者やケアマネジャーと入居者の現状を確認したり、職員の意見にはその都度対応して風通しのいいホーム作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	ICT化などの業務の効率化により、残業をしない職場環境に努めている。ただ、新型コロナがら類になったとはいえ、忘年会や職員旅行のような福利厚生はまだ制限しており、今後は再開を目指したい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	るしだでの月1回の学習会と月2回の法人の勉強会を実施している。法人の勉強会は併設施設が会場のなっているが、ZOOMIによるるしだからの参加も可能としており、職員の成長を後押ししている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本地域密着型サービス連絡会の地区支部会の中で、近隣のグループホームと定期的に意見交換をする機会を設けていたが、現在は新型コロナ感染予防のため、活動を見合わせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎日コミュニケーションを図る中で、上手に要望を聞き取り、個々のサービスにつなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	それぞれの家族の特徴を把握し、面会時に要望を聞き取るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、管理者や介護支援専門員が面談し、丁寧に要望を聞くようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活での家事(洗濯、掃除、草取り)など、できる限り声をかけ、一緒に行う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の会話を大事にし、利用者の発言など気になる部分があれば、必ず家族に相談する。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染防止のため面会制限を行っているが、ガラス越しの面会や毎月職員による手書きの写真付きメッセージをわたすことにより、近況報告を行っている。	担当職員による手書きの近況報告は、入居者の様子がよくわかると家族から喜びの声が聞かれている。入居者の得意とされる生け花や野菜の下ごしらえ、掃除や洗濯たたみなどが日課となって生活の張りに繋がったり、馴染みの新聞に目を通し、好きなテレビ番組を楽しみにされる方もおられる。ホームに來所する近隣の理髪店も馴染みであり、長年の関係性が出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の円滑な会話の支援を行い、関係に配慮し、席の位置を調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院が長引き退居された利用者は、母体施設でリハビリを継続しながら再入居を待つことができるよう支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ利用者の希望にかなうよう、検討している。	職員は日々入居者と接する中で、思いを聞き取り支援に反映するようにしている。食後もリビングで談笑する方や居室に帰り休息する方など思い思いに過ごされており、入居者が望まれる暮らしを支えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当制により、職員が各自必要に応じて情報を共有する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各担当者が毎日の状態の把握に努めている。細かい変化は記録に残す。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1人1人観察を行い、日々検討している。アセスメントを行い必要なものは積極的に取り入れるようにしている。	プラン作成にあたっては本人・家族の意向を優先し、職員意見を反映して立案している。初回プランは入居時のアセスメントやその後のホームでの生活の様子から入居者の現状を確認している。日常生活において本人がこれまで携わってきた家事手伝いなどに関わってもらい、他者との関わりから徐々にホームに溶け込んでもらうような内容をあげている。3か月ごとに担当者会議を設置し、家族の来所が困難な場合は電話で慣れて来られた様子などを伝えながら更に要望を引き出すようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かい所まで必要なところは記録に残し情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的に家族へ連絡したり、面会時に情報に共有に努め、希望などを聞いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の感染状況を見ながら、ドライブや買い物などに行き、気分転換を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診や医師への状態報告を行っている。	全員が法人の医療機関をかかりつけ医とし2週間に1度の受診を支援している。歯科は必要時に支援しており、普段は毎食後の歯ブラシやスポンジブラシによる口腔ケア、適切な義歯管理が行われている。歯ブラシは職員が定期的または状態を見ながら交換している。職員は日に2回のバイタルチェックや月1回の体重測定(ホームや隣接施設の車いす対応型を利用)、日頃の関わりから異常の早期発見に努め、気になる事があれば主治医や提携看護師に伝え指示を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携する看護師は、毎日の業務日誌に目を通し、日々の利用者の体調をチェックしており、何かあったらすぐ内線で駆けつけてもらえる体制をとっている。定例会議にも出席し、職員へのアドバイスも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院とは情報の共有を行いスムーズな退院ができるように連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と終末期に対する延命などについて同意書にて確認をとっている。	継続した医療支援が必要でなく自然な看取りであれば支援する事としており、緊急時や延命治療などを含め、年2回家族の意向を書面で確認している。重度化・終末期支援に関する研修会は法人研修の中に組み入れ、職員が参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一回心肺蘇生法やAED使用方法の訓練を行っており、緊急時対応のマニュアルも作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常時災害対策委員会による水害、地震等の自然災害訓練を定期的に行っている。	今年度は9月に夜間を想定した消防訓練、12月に日中を想定し消防訓練と応急手当講習を受けている。ホーム周辺やホーム内のコンセントの埃は定期的に確認している。BCPIについては現在完成間近であり、法人施設との合同でグループワークも行われている。	今後は地域の協力を得た訓練など連携が期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の性格などを分かった上で、接し方を変えて対応している。	入居者の一人ひとりの個性やこれまでを知り、尊厳をもって接する事を共有している。呼称は苗字にさん付けを基本としているが、反応などから下の名前での対応も家族に確認している。身だしなみやおしゃれの支援として、入居者の中には毎朝のお化粧品や丁寧な洗顔などこれまでの生活の延長として取り組まれる方もおられる。髪の毛のカットは訪問理容で支援しており、髪染めは色など利用者の意向を聞きながら職員による支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者の声をかたむけ、できるかぎり希望にそえるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ一人一人のペースに任せ、できない所だけの介助を行うよう心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧やネイルなどの支援を行い、利用者に喜んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	キッチンに立つのは難しいが、野菜の皮むき等簡単な作業を手伝ってもらっている。	開設時からホーム内調理を継続しており、台所からの音や匂いも入居者の楽しみに繋がっている。朝食は職員で、献立作成や昼・夕食の調理は専任者を中心に行っており、正月やひな祭りなどの行事食、誕生日には好みを聞き準備している。また、嚥下力に依ってお粥やキザミ、ミキサー食で提供している。入居者は煮物などの和食に限らずハンバーグなどの洋食も好まれるようである。もやしの根切りやテーブル拭き、来訪者にお茶を届ける等個々に依じて取り組んでもらっている。	入居者にとって食事は楽しみの一つであり、今後もホーム内調理が継続されることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量を把握、管理し利用者の健康的な暮らしを支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアに取り組み、義歯の管理も適切に行っている。歯科衛生士の外部講師による研修にて、口腔ケアの向上にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを細かく把握することにより、1人1人にあった排泄ケア、オムツの選択などを支援している。	個々の排泄パターンを細かく把握し、適切な排泄用品の選択や支援方法を共有している。日中はトイレでの排泄を基本とし、布パンツにパットの併用やリハビリパンツ、昼のみや昼夜を通してオムツを使用される方もおられる。夜間のみ使用される方のポータブルトイレは、臭気など残らないよう清潔に管理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1人1人お排泄パターンを把握している。また、水分補給、腹部マッサージ、体を動かすなどにより便秘の予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声かけを行い、入浴拒否時は無理には誘わず、利用者の様子を観察しながら翌日や後日に延期する。	週2回午後からの入浴を支援しているが、3回入られる方もおられる。職員は入居者がゆっくりと湯船に浸かってもらえるよう、2名介助でも対応しながら取り組んでいる。今後入居者の身体状況からこれまでの支援が難しくなっていくことが予想されるが、現時点で出来得る支援への取組が評価される。拒否がある場合は、気分が乗られるまで待つなど、無理強いせず対応している。冬は保湿剤の入った入浴剤を使ったり冬至には、職員が持参した袖子を使用し季節湯を2～3日間支援している。入浴後は個別で保湿剤の湿布と、水分補給としてお茶を主に提供しているが、スポーツ飲料類も好まれ準備している。	露天風呂気分を味わえる浴室環境である。今後は洗剤の保管場所や窓の棚をスッキリ整頓することで更に寛げる浴室環境になると思われる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が休みたい時には自由に居室に戻るなど気兼ねなく生活できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々、飲み忘れがないように確認できている。また、個々の利用者の状態を把握し、主治医への報告する流れもできている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	エコクラフトでカゴを製作したり、日常生活の中でも洗濯物をたたんだり干したり、掃除したり、できる家事を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	5類に移行後も感染への懸念から、なかなか外出することができていない。	コロナ5類移行後も、入居者の希望や職員の支援したい外出には取り組めていないが、裏庭の散歩や採光の良い窓側での日光浴を楽しんでいる。入居者の希望で地域の商店へ嗜好品の購入やバラの花見学に出かけており、今後は状況をみながら季節に応じた外出支援に努めていきたいとしている。	「墓参に出たい！」など外出先の希望を出される方もおられ、家族の協力を得ながら実現されることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力によって、自分でお金を管理する場合もあるが、そうでない場合でも、預かり金として事業所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分の携帯電話やホームの電話で家族と連絡がいつでもできるよう、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの壁などに季節に合わせ、絵手紙などをはったり、工夫してる。	明るく開放感のあるリビングホールからは、散歩にも活用される庭先が眺められ、梅をはじめ季節の樹木や草花が入居者の目を楽しませている。また、ホーム玄関やリビングなどにも季節の草花や観葉植物などが飾られている。朝からのリビングホールの掃除や洗濯物取り入れ、たたみ作業など出番も用意され、手際よくこなされる入居者の日常の光景を見る事が出来た。コロナ5類移行後も掃除や換気をはじめ、感染症への対応を継続している。また、年1回ワックスがけにより床は美しく保たれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者1人1人が会話を楽しめるように、それぞれの関係を考慮し、椅子の配置を工夫する。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族にお願いし、自宅で使用していた物をもってきていただき、配置している。	入居される方の家族には室内にエアコンやベッド、クローゼットが備わっていることや、一覧表をもとに必要な持ち込み品について説明している。また、他の入居者の部屋を見てもらい、居室環境の参考にしてもらっている。収納用プラスチックケースや椅子、鏡台やメイク用品など馴染みの品の他、家族の写真なども持ち込まれている。居室内は歩行や車いすなど状況に応じて、物品の配置を検討しており、車いすの安全チェックは法人PTやOTがリハビリ状況の確認でホームを訪れた際、見てもらっている。	採光の良い居室からは裏庭や地域の田畑の様子が眺められ、入居者にとって心落ち着く風景と思われる。今後も家族と一緒に本人にとって居心地よく過ごせる居室作りに努めていかれる事を期待したい。身近な取組として好みや趣味の絵が付いたカレンダー（動物や花、乗り物など）も良いと思われる。取組に期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者1人1人できること、できないことを把握し、職員の見守りの中で、活動を促している。		